

想像を超える現実



桜台小学校5年 川村 虹心 さん

平和学習会に参加して心に残っていることが三つあります。一つ目は、銅でできている原爆ドームの屋根がとけていて、原爆のい力の大きさが想像以上に大きかったです。二つ目は、ガイドの方がおっしゃっていた言葉です。被爆者の「苦しみや「つらさ」が自分の想像を超えるおそろしい現実でした。三つ目は、平和記念式典での子ども代表の「平和への誓い」の言葉です。『ちがいを『良き』と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。』この言葉を聞いて、私でもできる平和への一歩だと思いました。

平和記念式典の参加者の四割ほどが海外からの参加で、世界の人が原爆についてきょう味を持ってくれていると思えました。もっと世界中の人々に広島で起きた現実や原爆のおそろしさを知ってもらいたいです。



大迫小学校5年 阿部 瑠愛 さん

非核平和学習会に参加して

八月五日と六日に非核平和学習会に参加しました。私は戦争や原爆をあまり知らなかったのですが、実際に広島に行き戦争の怖さや、平和の大切さを学びたいと思ったからです。広島平和記念資料館では、けがをして治りようをしてもらっている人の写真や、原爆でもえてしまった三輪車を見ました。一しゅんでこのような状況にしてしまう核兵器のおそろしさを知ることができました。

非核平和学習会に参加したあと、私は広島でおこった戦争や、原爆ドームについて調べました。たくさんの方が亡くなったり、生活の場を失ったのを知りすごく悲しい気持ちになりました。また、今でも放射能をうけたことで苦しんでいる人もいると知り、おどろきました。今回、この学習会に参加して学んだことを、みんなに伝え、戦争や核兵器で苦しむ人がいなくなっしてほしいと思いました。

原子爆弾の恐ろしさ



湯本小学校5年 居館 ひかり さん

私は「平和とは何か」と聞かれたら、「自然」と答えます。美しい自然と、町の人みんなが笑顔で生活し、争いがないところが「平和」だと思います。七十九年前の広島も、きっと美しく笑顔があふれていたのだと思います。

しかし、戦争と原子爆弾によって、町は一瞬にして地獄のような世界に変わってしまいました。平和記念資料館で、原爆に焼かれた人の服や帽子を見ました。今でも血の跡が残っていました。がれきの下敷きになっている人々が、「助けて」と叫び続ける声が今にも聞こえてくるようでした。

私は「戦争は絶対に繰り返してはいけない」とみんなに伝えていきたいです。緑豊かな自然も、家族との時間も、友達と過ごす時間も、戦争はすべてを奪ってしまからです。私は今ある「当たり前」のもの」を大切に、これからも過ごしていきたいです。



石鳥谷小学校5年 横澤 泰知 さん

非核平和学習会に参加して

ぼくは、非核平和学習会に参加しました。平和記念資料館では、亡くなった人たちのしゃしんや原爆が落ちたあとの様子を表した絵、実際の曲がった鉄、とけたガラスびんなどを見て、原爆のおそろしさを知りました。

世界ではまだ、たくさんの中で戦争をしています。家族や友人、小さな子どもたちがぎせいになっています。この学習会に参加してぼくは、あらためて戦争はよくないと思いました。そして、ヒロシマのようなぎせい者をふやしたくない、平和な世界をつくりたいと思います。そのためには、周りの人を大切にしようと思いました。困っている人がいたら助けたり、地いきの人に積極的にあいさつをしたりしていきたいです。非核平和学習会で学んだことをこれからの生活にいかし、自分と周りの人の命を大切にしていきます。

平和学習会で学んだこと



矢沢小学校5年 柴田 統季 さん

ぼくは、平和学習会に参加しました。原爆ドームや記念館を見学した時、とても見るのがこわかったです。ぼくは、広島に行く二週間くらい前に左足にやけどを負ってしまいました。とても熱くて痛かったです。ぼくはやけどを負ったのは、一部だけ、原爆が落ちた所にいた人はあんな熱くて痛い思いを全身に感じていたと思います。原爆の放射線で細ぼうが戻れずに死んでしまい、だつもうしゅうやガンにもなると知りました。想像もできません。

記念式典では、たくさんの方が原爆を忘れないでいることがとても大切だと思いました。

広島はとても暑かったし片道七時間もかかって遠かったけど、大事なことを学んだりできて、とても良い経験になりました。家や学校でも学んできたことをみんなに話したいと思っています。またいく機会があったら行きたいです。



八幡小学校5年 高橋 天花 さん

非核平和学習会で学んだ事

私は、八月五日と六日広島に行つて平和記念式典に参加して来ました。爆だんが落とされて、一気に町は焼けてなくなり、核兵器はとてもおそろしいと感じました。

原爆の子の像のモデルになったのが当時六年生の佐々木さだ子さんです。今の私くらいの年で死んでしまった事を知って、まだまだやりたい事があるのにくやしかったと思つたし、かわいそうだと思いました。平和記念公園には沢山の折りづるがありました。それを見て、戦争がない事を世界中の皆が願っていると思いました。核兵器は作つてはいけないと思います。戦争のない、核兵器のない、友達とけんかしない平和な世界がいいです。そして、学校に通えること、友達と遊ぶことをあたり前と思わないで「ありがとう」の気持ちを忘れずに生活をします。

戦争のこわさ



宮野目小学校5年 小田島 陸宇 さん

原爆とはどういうものなのだろう。原爆やかく兵器という言葉は本の中にその時代の中で一番力の強いものと書いてありました。実際に平和記念資料館へ行き、爆弾のい力でボロボロになった服やくだけちつた岩、とけた三輪車を見て、思った以上の破かい力におどろかされました。家族が死んでしまったショックや、戦争のきょうふや絶望で自さつをする人がいた事も学びました。もう生きていけない、死んだ方がいいとおいつめられる状況ようだったのだろうと想像し、ぼくはとてもこわく、かなしい気持ちになりました。

今回の学習会に参加し、一番おそろしいと思った事は人の心もこわし、絶望においこむ物だという事を学びました。もう二度とこわく、かなしい気持ちにならないようぼくができることは、今回学んだことを伝え、広めみんなが平和をつくっていくことだと思います。



非核平和都市宣言 (平成18年3月13日議決)

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。

しかし、今なお、世界各地では悲惨な戦争があつたとせず、また、核兵器の存在が人類の生存と平和に大きな脅威をもたらしています。

私たちは、世界で唯一の核被爆国民として、地球上で二度と核兵器による惨禍を繰り返さないため、その悲惨さを全世界へ訴えていく重要な役割を担っています。

花巻市民は、日本国憲法の基本原理であり、人類共通の願いである恒久平和に向けて、非核三原則を遵守し、全ての核兵器の廃絶と軍縮が推進されることを強く願ひ、ここに「非核平和都市」を宣言します。